

# ふるさとと奪う原発ゼロに

## 東京・日比谷野音 全国から3500人集う

事故から6年

あと1週間で東日本大震災・東電福島第1原発事故から6年を迎える4日、「原発をなくす全国連絡会」は東京・日比谷野音楽堂で「原発ゼロの未来へ 福島とともに 3・4全国大集会」を開きました。福島県から2500人が参加したのをはじめ、全国から3500人がつどいました。集会後、銀座をパレードし、「原発なくせ」「再稼働反対」とアピールしました。

↓関連④面  
主催者あいさつした全労

連の小田川義和議長は、福島の避難者切り捨てを許さない声を大きく広げようと訴え、「立憲主義、民主主義を破壊する安倍政権を一日も早く終わらせよう」とよびかけました。

宇宙飛行士でジャーナリストの秋山豊寛さんがメインスピーチ。自身も福島県でシイタケ農家を営んでいましたが、現在は「原発難民」と自己紹介。「市民の声で安倍政治を変え、原発ゼロを実現し、国と東電に責任を果たさせよう」と訴え、大きな拍手に包まれました。

特別発言で、2015年9月に避難指示が解除された福島県楢葉町の早川千枝さんが発言。避難者がいじめにあい、ひきこもりや自殺も少なくないと述べ、原発事故さえなければ、ふるさとでの一家だんらんを奪われることもなかった、と声を詰まらせた。「こんな思いを誰にもさせたくない。原発ゼロへみんなで頑張ろう」と訴えました。

さよなら原発1000万人アクションの富山洋子さん、首都圏反原発連合のミサオ・レッドブルフさんが連帯あいさつ。日本共産党から藤野保史衆院議員、岩淵友参院議員が参加し、藤野議員があいさつしました。自由党の小沢一郎代表、社民党の吉田忠智党首のメッセージが紹介されました。

福島県浪江町から大玉村に避難している馬場靖子さん(75)は、「政府は「避難解除ありき」ですが、収入も生活の保障もない。とこ



「国と東電は責任果たせ」とコールする集会参加者＝4日、東京・日比谷野音楽堂

ろが「避難者は賠償をもらえていいわね」といわれ、発はなくさなければいけない」と語りました。